



アエファ AEFA通信

NPO法人 アジア教育友好協会

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

電話 03(6426)0720 /FAX 03(6426)0721

AEFAオリジナル授業

AEFAならではの、アジアの友だちの生活を“感じ・体験する授業”

「水を大切に」 相模原市立藤野南小

ふだん何気なく使っている水の大切さを実感すると共に、実際に水汲みを「経験」し、水の使い方を考えよう、というのが授業のねらいです。

日本人は1日1人当たり約220リットルの水を使っているといわれています。2リットルのペットボトル約110本も水使用量は、世界第4位です。一方、国連の定めた「人間らしい生活が出来る最低量の水の量」は12リットル。世界の8割もの人が、1日にペットボトル6本分しか水を使えない現状があります。

110本と、6本。その“量”のちがいを、実際にペットボトルの本数を見て体感しました。

「お水がなかったら、手も洗えないし、不潔になって病気になるって死んじゃうかも・・・」と誰かがつぶやくと、最初はにぎやかだった教室は、いつのまにか静まり返ってしまいました。

蛇口をひねればいつでも水が流れる日本。それがどんなに恵まれていることか、またその水を保ってくれている人たちがいることを学びます。

「ぼくたちも、お風呂にペットボトルをいれりかして、水をふやして使うようにすればいいね！」との意見も出ました。

電気・水道が無いアジアの村では、水汲みは子どもの仕事。朝に夕に、村の井戸や川まで、バケツやひょうたんを持って水汲みに通っています。

藤野南小の児童も、バケツやタンクに水を張って校庭を2周して運びました。

「重くて肩がいたい」「ベトナムやラオスの子は、こんな大変なことを毎日何回もしているなんて・・・」と、ぐったりした表情の子どもたちでしたが、授業後に水を流す時には「飲めるお水なのにもったいない！」「すてないで、水まきに使おう」との声もあがっていました。



上手に運ばないと、水がはねてびしょりに！



「ラオスのデザート体験！」 港区芝小

写真やお話だけでなく、実際にラオスを体感してみよう・・・と、2年半前に来日したケオマニー・パロマさんがラオスの衣装（シン）で登場。ラオスの子どもたちや学校生活についてのお話と、ラオスの家庭的なデザート“ヴァーン”（ゼリーのようなおやつ）を紹介する授業が行われました。

ココナツミルクと砂糖で作るシンプルなヴァーン。甘みを付けるために「いちごシロップ」を入れたのがミソで、まるでいちごミルクのようなあま〜い香りです。

「おいしい！」「超おいしい！」と芝小の子どもたちにも大好評でした。

日・英・タイ語にも堪能なパロマさんと、タイ語で会話する児童もいました。



ラオス語を教えてもらいました

「学校に行きたい！」 仙台市高森中・七郷中

「アジアの貧しい子どもたちのことを知りたい」「AEFAがどういう風に学校を作っているのか知りたい」・・・ 修学旅行の一環として、仙台市の中学3年生2グループがAEFAを訪問、国際協力について学びました。“貧困”や“学校に行けない子どもたち”の姿は、毎日のようにテレビなどで流れています。ただ映像として客観的に見るのではなく、一歩踏み込んで考えてみよう・・・

とのねらいで、アクティビティを取り入れた説明を行いました。“貧困”の原因を記したカードで、貧しさの悪循環とその連鎖を断ち切る方法を自分なりに考え、発表しあったり、「学校に行きたい！すごろく」で出生から小学校入学までの道のりを疑似体験。同時にスタートしても、お金がなくて教科書を買えず入学できなかったり、家の手伝いのために途中で退学になったり・・・今、この瞬間に、同じ年頃の子供たちが生きている状況を体感し、自分たちの恵まれた環境に気づくきっかけとなりました。





交流ウ・ラ・バ・ナ・シ その1 「植物検疫のお話」

「かぼちゃプロジェクト」(武蔵村山市立第八小&ラオス パ
チュドン校)に引き続き、今年は「とうがらしプロジェクト」(福島
県東館小&ラオス ナトゥール小)がスタートしました。



とうがらしの種をラオスから持
ち帰るのは、なかなか大変！
はメコンデルタに位置し、平均
市場では生のもと天日乾燥
月収32\$と貧しい地域です。
させたもの、トウガラシ粉を売っ
少数民族クメール族の子どもた
ちには、細い「モンキーブリッジ」
が持ち帰ったところ、成田空港

の検疫であえなく没収。ラオスの家庭のお台所からそのまま
らってきたため、種に土がついており、焼却処分となってしま
いました。タダでは引き下がらない理事長は、「ではどのような
状態で持ち帰れば、通すことができますか？」と検疫官に相談
したところ、「きれいな状態で、実や種に病気がないことが目視



できればOKです」とのこと。そ
こで、4月に再挑戦！とうがらし
をホテルの部屋で1つ1つ実を
ほぐし、種をよりわけ、きれいな
ものを選びました。とうがらしの
粉が飛び散り、涙と鼻水がとま
らない！思わず目をこすれば
目から火が出る・・・！



「トウガラシ Sprey って、かけ
られたらこんな感じ？」と思いな
がら、甲斐あって今回は無事
検疫を通すことができました。

その2 「大交渉の結果・・・」 (ベトナム)

2008年度タイ・ファイコン小に引き続き、今年度も「アジアの子
供たちに学校をつくる議員の会」様より、ベトナム南部チャビン
省フートゥーC小学校へご支援
をいただきました。フートゥー村
はメコンデルタに位置し、平均
月収32\$と貧しい地域です。
少数民族クメール族の子どもた
ちは、細い「モンキーブリッジ」
を渡って通学しています。



代表の遠藤利明議員

当初の学校建設予定地は、
約1500㎡の大きさ。「これでは
学校としての機能が果たせな
い！」子どもたちのために、十
分かつ安全な学びの場を作り
たい・・・とのAEFA理事長の想



子どもたちの通学路

いで、時には強く時には柔らか
く粘り強い交渉が続きました。
そしてついに村人たちが協力
しあって土地を提供、2500㎡を
確保することができました。村
人たちの協力はそれだけでは
なく、雨季でも子どもたちが思



学校建設予定地

いきり遊んだり運動できるように、
「プレイコート」の建設作業も行います。
同校は5教室+職員室の新校舎に建て替えられ、AEFA初「瓦
屋根」の、耐久性に優れた学校となります。

東京都から寄付された パーカ&キャップをラオスの子どもたちに

東京都東京マラソン事務局様より、「東京マラソン2008」の
パーカ&キャップが寄付され、鈴与タイランド・鈴与株式会社様
のご協力で、ラオス山岳地帯の子どもたち・学校の先生に贈ら
れました。AEFA理事長がひとりひとりに手渡し、「勉強をがんば
って」と激励。強い日差しにさらされ、乾季には朝晩冷え込
む現地で、大変喜ばれました。



～フレンドシップ校の先生方へ～ 平成21年度の交流について

今年度も、AEFA交流をよろしく願いいたします。

アジアとの作品交換は、年に1回を基本とします

- ☆6月 アジア・交流校の情報をお届けします
- ☆9月 日本からの作品を、AEFA事務所へ送ってください
- ☆10/31 「第四回AEFAフォーラム開催」
- ☆12月 アジアからの作品をお届けします

*授業や活動への取り組み、アジアの情報や写真資料提供な
どのご相談は、お気軽にご連絡ください。

* SKYPE(インターネット通信) を用いた授業も行っていま
す。カメラの初期費用のみで、無料で通信できますので、今後
も活用していきたいと思っています。